

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
001	堤	目次		ed	参考文献を 附属書 JC の下の方に横線で区切って記載する場合には、目次に「参考文献」を記載していません。 (参考文献に関するコメント参照)	参考文献の行を削除	採用
002	堤	序文		ed	「なお、 附属書 JA [ひずみ速度に基づいた試験方法 (試験方法 2)] は、 ISO 6892-1 の 10.3.2 [Testing rate based on strain rate (method A)] を基とし、技術的内容を変更して規定した附属書で、対応国際規格にはない事項である。」と記載してありますが、 附属書 JA は、 ISO 6892-1 に全く記載されていないと解釈される可能性があると思います。	「なお、附属書 JA は、～変更して規定した附属書である。」に変更する。	採用
003	堤	序文		ed	「この規格で、 附属書 JB 及び 附属書 JC は、」の「この規格で、」を、2行上の 附属書 JA の前に移動してはどうでしょうか？	「なお、 附属書 JA [ひずみ速度に基づいた試験方法 (試験方法 2)] は、 ISO 6892-1 の 10.3.2 [Testing rate based on strain rate (method A)] を基とし、技術的内容を変更して規定した附属書で、対応国際規格にはない事項である。また、この規格で、 附属書 JB 及び 附属書 JC は、対応国際規格にはない事項である。」 → 「なお、この規格で、 附属書 JA [ひずみ速度に基づいた試験方法 (試験方法 2)] は、 ISO 6892-1 の 10.3.2 [Testing rate based on strain rate (method A)] を基とし、技術的内容を変更して規定した附属書で、対応国際規格にはない事項である。また、 附属書 JB 及び 附属書 JC は、対応国際規格にはない事項である。」	修正採用 附属書 JA に関わる記述は、「…変更して規定した附属書で、対応国際規格にはない事項である。」に修正します。
004	堤	1		ed	室温の範囲として「10℃～35℃」を追加したことを、対比表に記載してはどうでしょうか？		採用
005	堤	1		te	「金属材料の引張試験方法及び機械的性質について」と、記載されているが、規格名称は方法だけであり、整合していないのでは？		原案のまま 「測定可能な機械的性質」は、定義した用語などを意味しています。

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
006	堤	1		te	「で測定する」ではなく、対応国際規格直訳の「で測定可能な」とはどのような意味でしょうか。 室温で測定不可能な材料をイメージできません。	「で測定可能である」に変更してはどうでしょうか？ (Z8301:2019 の解説表 1 参照)	採用
007	富士原	3.5		ed	3.5 項目番号のみが p.2 に記載され、内容は次ページとなっている。	項目番号 3.5 を p.3 に移動させる	採用(編集校正時に修正します)
008	堤	3.6.4, 3.6.5, 3.6.6 など		ed	対応国際規格では、“Note to entry”と記載されていますので、「注釈」として記載してはどうでしょうか？		原案のまま 旧規格の記述を踏襲しました。技術的な差異はないと思います。
009	堤	3.7.2		ed	字句修正	「～と～とを基に」→ 「～及び～を基に」	採用
010	堤	3.7.3		ed	v_c は、量記号では？	「 v_c 」→「 v_c 」	採用
011	桑原	3.7.3		te	語句の追加	「時間当たりの」を「単位時間当たりの」に修正	採用
012	桑原	3.7.4		te	語句の追加	「時間当たりの」を「単位時間当たりの」に修正	採用
013	堤	3.9	図 8 注*	ed	「～規定しない。～可能である。」とはどのような意味ですか。	「受渡当事者間で協定することが可能である。」→ 「ただし、受渡当事者間で協定することが可能である。」	採用
014	堤	3.9	t	te	図 8 は「応力-伸び曲線」ですので、最大試験力 F_m を定義している 3.9 において、(図 8 参照) を記載することは適切ではないと思います。 (3.9.1 及び 3.9.2 も同様) 3.10 の注釈 2 をここにも記載してはいかがでしょうか。		採用
015	堤	3.9		ed	角括弧→丸括弧 最初の括弧に点線の下線追加	[図 8 参照] → ..(図 8 参照)..	採用
016	堤	3.9.2		ed	句点位置移動	「定義しない。 [図 8 c) 注*参照] 」→ 「定義しない [図 8 c) 注*参照] 。」	採用

コメントのタイプ: ge = 一般的 | te = 技術的 ed = 編集上

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
017	堤	3.10		ed	「ここでは」とは、どういう意味でしょうか。	「この規格では」に変更してはどうでしょうか？	採用
018	堤	3.10.2		ed	(降伏点) の括弧書きは、どういう意味ですか。 以下同様。	「降伏応力, 降伏点」ではないですか。	採用
019	桑原	3.10.2		te	文意の明確化	「点に対応する応力」を「ひずみに対応する応力」に修正	採用
020	桑原	3.10.2.1		te	文意の明確化	「最初に試験力の減少が観察されるまでの間の応力 (3.10) の最大値」を、11 項 2 行目の表現に合わせて「試験力が最初に減少する直前の 応力の 最大値」に修正	採用
021	桑原	3.10.2.2		te	「塑性降伏」という用語が定義されていません。単に「降伏」でよいと考えます。	「塑性降伏」を「降伏」に修正	採用
022	堤	3.10.3		ed	字句修正	「に規定した」→ 「に規定する」	採用
023	堤	3.10.4 3.10.5		ed	JIS Z 8301 の 16.5.5 では、「一つの用語で複数の概念を定義する必要がある場合、各概念に対応させてそれぞれの用語を繰り返して表記する。その場合、それぞれの定義文の前に山括弧 “< >” を付けて適用領域を示す。」と規定されていますので、JIS Z 8301 の 16.5.5 の例のように記載されては如何でしょうか	<p>【3.10.4 の場合】 耐力 (全伸び法) (proof strength, total extension) , R_t 全伸び (伸び計の-----) → 耐力 (proof strength) , R_t <全伸び法>全伸び (伸び計の-----)</p> <p>【3.10.5 の場合】 耐力 (永久伸び法) (permanent set strength) , R_r 試験力を除去後, ----- → 耐力 (permanent set strength) , R_r <永久伸び法>試験力を除去後, -----</p>	<p>原案のまま 例えば、箇条 13 のタイトルのように、「耐力 (全伸び法)」としてひとつの概念を表現しています。</p> <p>「耐力」と規定した場合の製品規格の課題として、鉄連でも対応を検討していません。むしろ、この規格内での不整合が問題かと思しますので、原案のままといたします。</p>

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
						製品規格では、耐力（全伸び法）、耐力（永久伸び法）という用語は用いていないと思いますので、不整合になりませんか？	
025 024	堤	3.11		ed	句点削除	「現象。」→ 「現象」	採用
026	田中	3.13	注釈 1	ed	漢字に変更？	さらに → 更に	採用
027	富士原	3.13		ge	弾性係数 応力変化 ΔR と伸び計伸び変化 Δe との比に100を乗じて。。。 ⇒誤りではないが、各所で伸び計伸び(%)と記述されており、こちらも同じ表記が望ましい。	応力変化 ΔR と伸び計伸び(%)変化 Δe との比に100を乗じて。。。。	採用
028	田中		図 8 a)	ge	a)の図中に“ R_{eH} ”の表示はなくてもよいですか？		採用 図 8 a)を欄外添付図に入れ替えます。
029	堤	3 (対応国際規格の 3.14～3.17)		te	対応国際規格の 3.14 (default value) ～3.17 (relative standard deviation of the slope) をこの規格では削除したことを、対比表に記載してはどうでしょうか。		採用
030	堤	4	図 8 注*	ed	字句追加	「受渡当事者間で協定することが可能である。」 → 「この場合の引張強さは、受渡当事者間で協定することが可能である。」？	採用
031	堤	5		ed	字句修正	「実施される」→ 「実施する」	採用
032	堤	5		te	「試験室が評価する」とは、どういう意味でしょうか？		試験室が、「規定以外の温度で実施される試験及び／又は校正データに対する影響を」評価する、という意味です。

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
033	堤	6.1.1		te	「国家規格」とは何を意味しますか。	「製品規格」と「JIS」は一部が重複しているので、「製品規格又は試験方法規格」ではどうでしょうか？	修正採用 点下線付きとします。
034	堤	6.1.2 6.1.3		te	対応国際規格では may ですので、「あればよい。」を、Z8301 の表 5 の許容表現に変更しますか。	「あればよい。」→ 「としてもよい。」	修正採用 「…としてよい。」と修正します。
035	堤	6.1.3		ed	この箇所より前では、「つかみ部」と使用しているので、合わせてはどうでしょうか？	「つかみ」 →「つかみ部」	原案のまま 従来の表現のままで、「つかみ部」は、試験片がつかみ装置につかまれた部分、「つかみ」は、つかみ装置の試験片側の先端を意味していると思います。
036	堤	6.2		ed	字句削除	「材料の形状及び製品の区分とに従い」 → 「材料の形状及び製品の区分に従い」	採用
037	堤	6.2		te	「～指定によるが、～が望ましい。」（要求事項と推奨事項との重複）は、結局どっちなのか不明確。 （「～よるが、～でもよい。」ならば分かるが）	「いずれの試験片を用いるかは、それぞれの製品規格の指定による。なお、指定がない場合は、表 4 の使用区分によることが望ましい。」ではどうでしょうか？	採用
038	堤	7	注記 1	ed	「注記 1」と「呼び寸法」との間に、全角 1 文字分のスペースを入れる。		採用(JDT で TAB を挿入しているスペースが小さい)
039	堤	7		ed	ただし文の「0.01mm にとどめてもよい」に「何を」を記載してはどうでしょうか	「測定する数値の最小値」を追記した方が、分かりやすいと思います	採用 「測定する数値の最小値」を追記します。
040	堤	7		ed	「から計算する」「から求める」と記載していますが、「から」は時間・場所などの起点を示す意味に用いることになっています。（Z8301 の H.3.2.8 参照）。 他の同様。	「から」→ 「によって」又は「を用いて」	「を用いて」に修正します。

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
041	堤	7	例 3	ed	「例」の記載として「最小断面積部とすることがある。」は、適切でないと思います。	→「最小断面積部とする。」	採用
042	堤	7		ed	断面積の計算方法の例を追加したことを、対比表に追加してはどうでしょうか。		採用
043	堤	8.1		ed	字句修正	「表している。」→ 「表す。」 同様な記載は多数あります。	原案のまま 誤解のおそれはないと思います。
044	田中	8.2		ed	字句の統一	罫書き線 ←→ けがき線	採用
045	堤	8.2		ed	字句修正	「罫書き線」→ 「けがき線」 (「罫」は、常用漢字に含まれていないため)	採用
046	田中	8.2		ed	漢字に変更	いくつか → 幾つか	採用
047	堤	8.2		ed	「伸び計を用いて伸びを測定する場合は、標点を試験片にするす必要はない(20.3 参照)。」は、対応国際規格に記載されていないので、点下線が必要では。		採用
048	堤	8.3		te	対応国際規格では should ですので、「～全ての降伏現象を確実に検出するであろう。」の「であろう」は、不適切な表現では？	可能性・能力の表現である「～全ての降伏現象を確実に検出することが可能となる。」に変更してはどうでしょうか？	採用
049	堤	9		ed	対比表の箇条 20 のように「 JIS では、細分箇条の構成を変更した。」を、対比表に追加してはどうでしょうか。		採用
050	堤	9.1 及び 9.2		ed	「 9.1 試験機 」及び「 9.2 伸び計 」に点線の下線を施す。		採用
051	堤	9.1		ed	「引張試験に用いる試験機は、 JIS B 7721 による等級 1 級以上とする。」の「による」は、 JIS Z 8301 の 10.4 の 例 1 のように記載されては如何でしょうか。	「引張試験に用いる試験機は、 JIS B 7721 による等級 1 級以上とする。」 → 「引張試験に用いる試験機は、 JIS B 7721 に規定する等級 1 級以上とする。」	採用

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
052	堤	9.3		ed	細分箇条として「 9.3 長さ測定器 」を追加したことを、対比表に追加する。		採用
053	堤	10.3.1		ed	「MPa・s ⁻¹ 」は、対応国際規格及び現行規格のように、分数を表す場合は「/」を用いるのがよいと思います。 (Z8301:2019の表 B.1 の 3 参照)		採用
054	堤	10.3.2.1		ed	全て側線が必要では？		修正採用 全体は、ISO 6892-1 の 10.3.3.1 に整合しています。 "specified yield strength"を「予想される降伏応力」としましたので、この部分に点線下線を付けます。全体に側線は不要と思います。
055	堤	10.3.2.1		ed	字句修正	「試験される試験片」 → 「試験する試験片」	採用
056	堤	10.3.2.2		ed	全て側線が必要では？		修正採用 全体は、ISO 6892-1 の 10.3.3.2 に整合しています。 10.3.2.2.1 の"150 000MPa"を"150GPa"に修正していますので、この部分に点線下線を付けます。全体に側線は不要と思います。
057	堤	10.3.2.2.1	注記	ed	この注記は、表 5 に対するものと思われるので、表 5 の後に注記を記載してはどうでしょうか？		採用
058	田中	11	式(3)	ed	下付き添え字を立体にする。	$R_{eH} \rightarrow R_{eH}$ $F_{eH} \rightarrow F_{eH}$	採用
059	田中	12	式(4)	ed	下付き添え字を立体にする。	$R_{eL} \rightarrow R_{eL}$ $F_{eL} \rightarrow F_{eL}$	採用

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
060	堤	15	注記	ed	参考情報の表記にすべきと思います。	「これは、合否試験であって、標準的な引張試験では、通常、行われ <u>ない</u> 。試験片に付与する応力及び許容永久伸びは、製品規格又は試験の要求者によって規定される。例えば、試験片に付与される応力が 750 MPa で、永久伸びが 0.5 % 以下の場合には、“ R_{0.5}=750 MPa に合格”と報告される。」 → 「これは、合否試験であって、標準的な引張試験では、通常、行われて <u>いない</u> 。試験片に付与する応力及び許容永久伸びは、製品規格又は試験の要求者によって規定 <u>されている</u> 。例えば、試験片に付与される応力が 750 MPa で、永久伸びが 0.5 % 以下の場合には、“ R_{0.5}=750 MPa に合格”と報告される。」	採用
061	堤	20.2	注記	ed	参考情報の表記にすべきと思います。	「破断伸びを算出される。」→ 「破断伸びが <u>算出されている</u> 。」	採用
062	堤	20.2	注記	ed	この注記は、対応国際規格に記載されていないので、点線の下線が必要では？		採用
063	堤	20.2		ed	図 16 は、対応国際規格には無い図です。側線が必要ではないでしょうか。		採用
064	堤	20.3		ed	「伸び計伸び (%) は、破断時全伸び A_t として測定し、破断伸び (%) を求めるために弾性伸びを減じなくてもよい。」を追加したことを、対比表に追加してはどうでしょうか。		採用
065	堤	20.4.1		ed	「必要な場合、試験片の破断位置によって、次の記号を付記して区別する。」を追加したことを、対比表に追加してはどうでしょうか。		採用
066	堤	20.4.1		ed	図 17 は、対応国際規格には無い図です。側線が必要ではないでしょうか。		採用

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
067	堤	21		ed	±2 %以下の精度で S_u を測定することは、難しい場合がある件について、対応国際規格は small diameter としていたのを「直径又は対辺距離が 4 mm 未満 」に変更したことを、対比表に記載してはどうでしょうか。		採用
068	堤	22 a)		ed	この文面で意図は表現できていると思いますが、修正案でいかがでしょうか。	「10.3.1 で規定した試験条件を含めて、この規格で試験された旨 例えば、JIS Z 2241 2 224」 → 「10.3.1 で規定した試験条件を含めて、この規格で試験されたという情報。例えば、JIS Z 2241 2 224」	採用
069	堤	23.1		ed	字句修正	「この規格及び <u>JIS Z 2241:2011 までの規格</u> 」では <u>どうでしょうか?</u>	採用
070	田中	A.2.2	式(A-1) 式(A-2)	ed	下付き添え字を立体にする?	$f_{min} \rightarrow f_{\min}$	採用
071	田中	A.2.2	式(A-1)	ed	下付き添え字を立体にする。	$R_{eH} \rightarrow R_{eH}$	採用
072	堤	A.3.2		ed	「試験力の減少値及びひずみ範囲の値は、ソフトウェアで変更できることが望ましい。」を追加したことを、対比表に記載してはどうでしょうか。		採用
073	堤	A.3.6.1		ed	「試験力が設定値を下回った直前の値を破断時の値とみなしてもよい。」を追加したことを、対比表に記載してはどうでしょうか。		採用
074	田中	A.3.6.1 a), b)		ed	数値と%との間にスペースを挿入(2か所)	2%未満 → 2 %未満	採用
075	田中	A.3.6.1	図 A.2	ed	“F” の下付き添え字 m, n を統一 (立体?) する。		採用(立体に統一します)
076	田中	A.4		ed	漢字に変更	わかっている → 分かっている	採用
077	田中	A.4		ed	送り仮名の修正	取込んで → 取り込んで	採用
078	堤	A.4	表 A.1	ed	記号修正	「≤」 → 「≦」	採用
079	堤	B.2		ed	(带状～) の括弧の位置が不適切では。	「带状の形状でもよい (带状試験片 : parallel sided test piece) 。」 →	採用

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
						080「帯状の形状（帯状試験片：parallel sided test piece）でもよい。」	
080	堤	B.3		ed	平行部長さ L_c の規定は、5号試験片を除外していることを、対比表に記載してはどうでしょうか。		採用
081	堤	B.5		ed	「原断面積 S_0 は、試験片の寸法を測定するか、又は、良好な機械加工の場合は、呼び寸法を用いて（表 B.2 注 a) 参照）」の点線の下線は、「呼び寸法を用いて」だけでよいのでは？		採用
082	堤	C.1	図 C.1	ed	図 C.1 は対応国際規格には無いので、表の部分も側線ではないでしょうか。 対応国際規格では、文章で規定しているのを JIS では表にしています。		採用
083	堤	C.3		ed	矯正する際、具体的に、何を注意するのですか。		試験値に矯正の影響がでないように注意することを意図しています。
084	堤	D.2.3.1.1	表 D.2	te	なぜ（参考）なのでしょう。か。（現行規格も同じですが） 一方、本文では（参考）なのに「表 D.2 による」とあります。	「14B号試験片の標準寸法を、表 D.2 に示すが、」に変更してはどうでしょうか？	採用
085	田中	D.3.3	表 D.3	ed	上付き添え字の修正	寸法変化許容差 ^{ab)} → 寸法変化許容差 ^{b)}	採用
086	堤	E.1		ed	「管軸方向に採取した試験片の平行部は、通常、円弧状断面である。」を追加したことを。対比表に記載してはどうでしょうか。		採用
087	田中	F	式(F.1), (F.2)	ed	式中の下付き添え字を立体にする。		採用
088	田中	F		ed	句点を挿入(2か所)	曲線を用いる) → 曲線を用いる。)	採用
089	堤	附属書 G		ed	字句修正	(対応国際規格の記載を不採用とした。) → (対応国際規格の附属書を不採用とした。)	採用

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
						【Z8301 の 36.3 例 2 参照】	
090	堤	附属書 H		ed	対比表に、 図 H.1 の追加について記載してはどうでしょうか。		採用
091	堤	附属書 H		ed	附属書 H の本文中で、 図 H.1 について参照する文を記載してください。		第 3 段落の 5 行目を「…を用いて測定する (図 H.1 参照)。…」と修正します。
092	田中	K.2.3	式(K.3)	ge	記号 $u(x_1)$ の説明：測定値 x_1 の不確かさであり、“など”の使用は不適切では？ ← 表記を変える？	パラメータ x_1 の不確かさなど → 測定値 x_1 の不確かさ	修正採用 “ $u(x_1)$ ”を“ $u(x_n)$ ”に修正し、説明を「測定値 x_n の不確かさ (n=1, 2, …, n)」と修正致します。 加えて、式中の“n”を立体に修正致します。
093	田中	K.3		ed	漢字に変更	いくつかの一般的な → 幾つかの一般的な	採用
094	田中	K.3		ed	漢字に変更	さらなる詳細な → 更なる詳細な	採用
095	田中						
096	田中	K.3		ed	“的”を削除？	定期的に計画的する → 定期的に計画する	採用
097	田中	K.4 i)		ed	漢字の修正	奨めている。 → 勧めている。	採用
098	田中	K.4		ed	漢字に変更	いくつかある。 → 幾つかある。	採用
099	堤	附属書 L		ed	附属書 G のように、 「 附属書 L (参考) (対応国際規格の附属書を不採用とした。)」 を、附属書 K の次のページに記載してはいかがでしょうか。対比表に記載はあります。		採用
100	堤	附属書 JA		ed	附属書 JA では、点線の下線は不要です。		採用
101	田中	JA.1		ed	字句の修正	平行部長さを掛ける → 平行部長さを乗じる	採用

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
102	田中	JA.1		ed	送り仮名の修正	速度切り替え → 速度切替え	採用
103	堤	附属書 JC		ed	本文での引用がない。		表 3 の下に、以下の注記を挿入します。 注記 試験片バング尾及びその概要については、附属書 JC 参照。
104	堤	附属書 JC		ed	表しかありません。Z8301:2019 の附属書 A のように、何か文章を記載したら如何でしょうか。		表 JC.1 の上に、以下を挿入します。 試験片番号及びその概要を表 JC.1 に示す。
105	堤	参考文献		ed	附属書 JC の次のページから記載するのではなく、 附属書 JC の下の方に横線で区切って記載する。		採用
106	堤	参考文献	[3]	ed	ISO/TR 25679:2005,の 2005 の点線の下線は不要では	「点線の下線」の意味とは異なっているので、点線の下線は施さないで、廃止 TR である旨を注記として記載してはどうでしょうか？	採用
107	堤	附属書 JD	6 d)	ed	字句修正	「仕様区分」→「使用区分」	採用
108	堤	附属書 JD	11 d)	ed	字句追加	「計算式を追加し」→ 「上降伏応力の計算式を追加し」	採用
109	堤	附属書 JD	12 d)	ed	字句追加	「計算式を追加し」→ 「下降伏応力の計算式を追加し」	採用
110	堤	附属書 JD	16 d)	ed	字句修正	「----対応国際規格で規定された以外の方法も許容した。」→ 「----対応国際規格で規定された方法と同等に測定できる方法も許容した。」	採用
111	堤	附属書 JD	附属書 C d)	ed	字体修正	「JIS の方が」→ 「JIS の方が」	採用
112	田中	参考文献	[35]	ed	ページ数 “pp. 111–53.” に間違いはありませんか？		“pp. 111-153.”に修正します(

	1	2	(3)	4	5	(6)	(7)
番号	委員名	項目番号 (e.g. 3.1)	節番号 表等 (e.g. 表 1)	コメント の タイプ	コメント内容	修正案	主査意見 on each comment submitted
							ISO 規格規格の間違いでした。
113	田中	参考文献	[50]	ed	ページ数の修正？	pp. 237–8. → pp. 237–238.	採用

図 8 a) 入れ替え図

